

デジタル・アーキビスト NEWS LETTER

NPO 法人日本デジタル・アーキビスト資格認定機構
<http://npo-jcbcla.jp/>

デジタルアーカイブ in 岐阜 を開催しました

平成26年2月11日(火・祝) 10:00~16:40

会場: 岐阜女子大学 文化情報研究センター

共催: 岐阜女子大学 / NPO 法人日本アーカイブ協会

後援: 日本教育情報学会 / 岐阜県教育委員会

◆特別講演◆

「大学教育機能とマルチメディア」

布村 幸彦 先生

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
会副事務総長

(前文部科学省高等教育局長)

大学を取り巻く情勢、大学改革の方向性、ICT の活用についての取組、学修環境充実のための学術情報基盤の整備など国の教育への取り組みについて、各種データを通じ詳細かつ重要なご示唆をいただきました。特に、「ICT 社会における基盤であるマルチメディア、デジタルアーカイブの重要性に言及されたことが印象に残った」との、参加者の声があった。



「教材コーディネータと教材利用」

生田 孝至 先生

新潟大学副学長・日本視聴覚協会理事長

教える一学ぶ という関係は、「教師と学習者」、そしてその間にある「教材・メディア」がうまくマッチングすることである。戦後の教科書制度を確立された木田宏先生は、教科書は、本来「子ども一人一人の教科書であるべき」と話しておられた。デジタルメディアとメディア環境では、「実物・体験、印刷メディア、デジタルメ



ディア、通信メディアを、課題に応じて適切に組み合わせさせて活用する。」という後藤会長の説を引用し、一人一人の学習者に応じたものを工夫すること、そのため学習環境のコーディネートとして、教師の役割が極めて大きいことなど、教育に関わる様々な立場の参加者に対し、共感をよぶ説得力のある講演でした。

◆デジタルアーカイブセッション◆

○デジタルアーカイブの基礎

講師: 高納成幸先生 (岐阜女子大学)

STEP1: デジタルアーカイブのとは何か、 STEP2: 情報の発信と伝達、 STEP3: デジタルアーカイブの例・今後の課題と進み、タイトル通りこれを聴けばデジタルアーカイブの基礎がわかる講座をしていただきました。



○ロボットをメディアとしたデジタルアーカイブ

講師: 中村英樹先生 (飛騨神岡高等学校)

デジタルアーカイブを何に保存するか? という課題をテーマに解説していただき、中村先生がされた実践「人はロボットから郡上踊りを教わり、踊れるようになるか?」を例に、ヒト型ロボットを使ったデジタルアーカイブの可能性について、ロボットの実演を交えてご説明いただきました。



◆ICT 教育セッション◆

○デジタル教科書の未来

講師：片山敏郎先生（日本デジタル教科書学会会長、新潟大学教育学部附属新潟小学校）

勤務校でのタブレットPC を活用した授業の実践をご紹介いただきました。参加者は子どもたちが自主的に学び、創意工夫をして発表している様子を熱心に見て先生の講話に聞き入り、たくさんの質疑応答がなされました。ICT を活用した教育について考える機会となりました。



○電子黒板とタブレットの活用

講師：竹中章勝先生（京都光華中学校・高等学校教諭）

電子黒板を活用した授業のご紹介だけでなく、ICT 機器についてもお話いただきました。電子黒板を活用しながらの講演していただきました。また、ノートテイキングの工夫で生徒の思考力・表現力を高めることにも話が広がり、多くの示唆をいただきました。



◆図書館セッション◆

○デジタルアーカイブと図書館

講師：渡辺斉志（国立国会図書館 関西館電子図書館課）

国立国会図書館が構築しているデジタルアーカイブの概略を紹介するとともに、それを切り口として、図書館とデジタルアーカイブの関わりについて、その意義と可能性を考察いただきました。



○図書館における地域文化情報の発信

講師：丸山高弘（地域資料デジタル化研究会 副理事長）

市民の市民による市民のためのデジタルアーカイブ」をめざし、デジタル技術をもって過去や現在の出来事を地域の記憶として共有し、未来への希望や活力づくりに向けたデジタルアーカイブを作成していく取り組みについてご説明いただきました。



◆博物館セッション◆

○博物館とデジタルアーカイブ

講師：坂井知志先生（常磐大学教授）

デジタルデータを将来に伝える博物館の役割と課題について、総務省のガイドライン（デジタルデータの長期保存に関する記述）の指摘も踏まえてご説明いただき、あわせて、デジタル情報を利用するために必要となる著作権について解説いただきました。



○博物館資料を公共財として活かす

講師：佐久間大輔先生（大阪市立自然史博物館主任学芸員）

博物館に収蔵された大量の資料とその情報を公共財として活用するためのデジタルアーカイブについて、原資料の情報公開だけでなく、研究により付与された付加価値など、さらには博物館活動そのものをアーカイブする必要性についてご説明いただきました。



◆企業展示及び最新技術説明会◆

11社の企業から、デジタルアーカイブや教材作成、授業展開に求められる最新の技術や資料等について展示・解説をしていただきました。会場いっぱいの参加者で埋まりました。



◆デジタルアーカイブコンクール表彰式◆

今年度は168作品の応募をいただき、そのうち21作品の入賞という結果となりました。

入賞作品

<p>デジタルアーカイブ部門 最優秀賞</p>  <p>飛騨一之宮ものがたり 飛騨一之宮ものがたり研究プロジェクト (岐阜女子大学)</p>	<p>デジタルアーカイブ部門 最優秀賞</p>  <p>地域研究・社会探究 作品 2013 地域研究・社会探究 (岐阜県立益田清風高等学校)</p>
<p>沖縄修学旅行おうらい部門 優秀賞</p>  <p>めんそ〜れ〜沖縄 吉竹 彩加 (岐阜県立大垣商業高等学校)</p>	<p>教材クリエイター部門 最優秀賞</p>  <p>食の知恵 先人からの贈り物 マルチメディア部 (岐阜県立岐阜総合学園高等学校)</p>

○デジタルアーカイブ部門

<p>優秀賞</p>	<p>戦時中のアルバムのデジタルアーカイブ 各務 朱美 岐阜県多治見市デジタルアーカイブ 岐阜女子大学アーカイブ専修(岐阜女子大学) 我が校の文化祭 武藤 優季(関市立関商工高等学校) 岐阜 街おこし探訪 マルチメディア部(岐阜県立岐阜総合学園高等学校)</p>
<p>学校賞</p>	<p>戦う学生 本田 怜美 岐阜県立大垣商業高等学校 古時計 近藤 絵里子 岐阜県立岐阜商業高等学校</p>
<p>奨励賞</p>	<p>犬さん態 グループごいっと 手影絵デジタルアーカイブ 東 千翔(岐阜女子大学) 星の王子様 -Le Petit Prince- 三島 真里亜(岐阜女子大学) 恋愛相談 牧田 尚春(岐阜県立各務原西高等学校) 詞ノ華 済美高等学校読書文芸部(済美高等学校) おもてなし 郡上 郡上っ子(岐阜県立郡上高等学校)</p>

○沖縄修学旅行おうらい部門

<p>奨励賞</p>	<p>沖縄の地域研究 作品 2013 地域研究(岐阜県立益田清風高等学校) 南国の素晴らしさ 天木 貴宏(岐阜県立大垣商業高等学校)</p>
------------	--

○教材クリエイター部門

<p>優秀賞</p>	<p>OPAC 検索ガイダンス[e-learning コンテンツ](学習院女子大学図書館)</p>
<p>奨励賞</p>	<p>デジタル生物実験書 iPadではじめるe授業研究グループ 天気の本ミツ マルチメディア部(岐阜県立岐阜総合学園高等学校)</p>

お知らせ

デジタル・アーキビスト資格のカリキュラムが変わりました

デジタル・アーキビスト資格を取得するために必要な必須科目が下記の5科目になりました。
なお、その他の選択科目は各養成機関の特色により、科目や内容が異なってきます。

科目	内容
①デジタルアーカイブ文化論	デジタルアーカイブによる文化の伝承とは(文化の伝統と過去・現在・未来) 長期保存と短期保存の対象となる文化 デジタルアーカイブの理解を深めるための関連分野の事例
②デジタルアーカイブメディア論	情報源としてのメディアの特性(メディア環境) メディアの利用(収集、保存、管理、発信) 利用者からみたメディア(メディア利用の開放、ハイブリットメディアの活用)、メディアの耐久性(長期保存)
③計画と資料の収集	・デジタルアーカイブの計画(収集、取材の方法、スケジューリングなど) ・資料の収集とデジタル化(現物、印刷、デジタルメディア、通信等のメディア) ・デジタルメディアの一時保存(Item Pool)とメタデータの構成 ・保存構成(単体保存、集合保存、構成保存)
④デジタルアーカイブ選定評価	デジタルアーカイブの対象の選定評価の方法 ・文化的価値からの選定評価 ・知的財産権、プライバシー、倫理、 ・慣習、利益、社会的背景等の評価 ・短期保存および長期保存のための選定評価
⑤保存とメタデータ	デジタルアーカイブとして情報を管理するメタデータ、シソーラス 一時・短期・長期保存(Item Bank)のメタデータシステムの制作と管理

報告

2013年度 資格取得者 報告 (2014年3月20日現在)

資格	取得者数	全取得者数
上級デジタル・アーキビスト	101名	2066名
デジタル・アーキビスト	316名	
準デジタル・アーキビスト	1477名	
デジタルアーカイブクリエイター (旧: デジタルアーカイブ・コーディネーター)	172名	

◆資格取得者の主な所属先

教育関係者 (282名)、企業関係者 (282名)、図書館・博物館・美術館・公文書館等 (162名)、
官公庁等 (48名)、学生 (1094名)、その他 (198名)

- 事務所：岐阜女子大学文化情報研究センター内
- ◆ 東日本支部：
常磐大学コミュニティー振興学部坂井研究室内
- ◆ 西日本支部：NPO 法人コンサウエル内

□ 養成機関

岐阜女子大学、常磐大学、
NPO 法人日本アーカイブ協会、
奈良産業大学、株式会社レ・サンク
NPO 法人コンサウエル、東北文教大学短期大学部
沖縄女子短期大学、上田女子短期大学

NPO 法人日本デジタル・アーキビスト資格認定機構 (JDAA) <http://npj-jcbda.jp/>
問い合わせ：E-mail: info@npj-jcbda.jp